



# 物流ニッポン

2008年(平成20年)

9|25 (木)

発行/月曜日・木曜日 第3166号

購読料/半か年32,130円(月額5,355円、税込)

©物流ニッポン新聞社 2008 (昭和44年4月1日第三種郵便物認可)

## 仙南地区を地盤固め

### 大河原町に低温倉庫建設

白石倉庫

【黒田秀男】白石倉庫 (太宰雄一郎社長、宮城県白石市) が宮城県大河原町に建設していた低温倉庫「仙南さくら営業所」が完成、十八日から稼働した。同社八か所目の施設で、コメなど農産物の保管需要に対応する。

新倉庫は国道四号線沿



いの穀倉地帯に立地し、高速道路にも近い。地元農協と共同経営する形で、土地は農協が提供し、建物は白石倉庫が建設した。

敷地面積九千六百五十平方メートル。低温倉庫

↑

国道沿いの穀倉地帯に立地し高速道路も近い

同社は白石市の本社と仙南地区に営業倉庫を構えているが、エリア面では、その中間地区が手薄だった。そこで今回、大河原町に施設を開設し、仙南地区の拡充を図った。

庫は平屋建てで床面積が三千二百八十平方メートル。建物の中央に荷さばきスペースを設け、両サイドに農産物の保管と流通加工

物の積み下ろしができる。コメ、麦、大豆などの農産物の保管と流通加工の需要に配慮する。米の保管では約六千トンの検査能力があり、検査は

農協が行なう。今年度産の「新米」から取り扱う予定。

同社は一九〇〇年に創業、コメなど農産物の保管を中心に事業を展開してきた。近年では高度化、多様化するニーズへの対応を進め、保管、荷役だけでなく、各種流通加工や通関、コンピュータによる情報提供などのサービスで事業の拡大を図っている。

太宰栄一専務は「地域の地盤を固めたかった。中間地点に拠点を構えられたことで、仙南エリアは面としてなってきた。二年後の創業百十年を踏まえて、主力の農産品とともに一般貨物のニーズにも的確に対応していく考えだ。拠点のある仙南エリアにも注力していきたい」と話している。